

News Letter

2026
Summer issue

令和8年8月13日発行

Japan Society for the Sociology of Sport and Physical Education

一般社団法人 The 76th Conference of Japan Society of Physical Education, Health and Sport Sciences

日本体育・スポーツ・健康学会第76回大会

地域変革へのスポーツ実践と科学の貢献
ーウェルビーイング実現に向けた「集まる・つながる共生社会」を目指してー

日程 2026年 8月31日(月)～9月2日(水)
会場 北翔大学・札幌コンベンションセンター

主管校 北翔大学 HOKUSHO UNIVERSITY

日本体育社会学会

事務局：〒651-2187

兵庫県神戸市西区学園東町 9-1

神戸市外国語大学 常行泰子研究室内

E-mail: jimukyoku@jssspe.org

< 目 次 >

日本体育社会学会第4回大会報告	1
日本体育・スポーツ・健康学会第76回大会 スケジュール	3
『年報 体育社会学』編集委員会より	6
事務局より	7
あとがき	12
ちよっと一息、体育社会学	

＜日本体育社会学会第4回大会報告＞

2026年6月27日（土）・28日（日）の二日間にわたり、日本体育社会学会第4回大会を早稲田大学東伏見キャンパスで開催することができました。

学会大会をいつかは引き受けなきゃいけないだろうな、と覚悟はしていましたが、思いのほか早く順番が回ってきたような。いずれにしろ、私（中澤）のみでは力不足が明白なので、早稲田大学の同僚と元同僚に実行委員へ加わっていただきました。木村和彦さん、高橋義雄さん（本学会理事としても）、星野映さん、森田達貴さん、堀田文郎さんに感謝申し上げます。とくに森田さんには会計担当を、堀田さんには会場運営をお任せしまして、大変に助けられました。

そうした実行委員会でも、全国からみなさまをお迎えすべく準備を進めていたところ、学会直前に南西からやって来たのは予想外の台風2つでした。急いで会長・理事長・事務局の先生方と相談しながら、オンライン参加もできるように態勢を整え直して、なんとかハイブリッド形式で開催に至りました。結果として、対面参加84名、オンライン参加31名の合計115名の方に参加いただけました。第1回大会の立教大学(117名)に次いだ数字で、ありがたいです。

学会大会の主役たる口頭発表は10件でした。当初、私の周りでは「参加するよ」「絶対いくよ」と言ってくださる研究者が多かったので、数十くらい申し込みがあるかな、と夢想してしまっていて、発表会場を3部屋用意する段取りを組んでいたのですが、1部屋で済みました。ちょっと残念と思ったのは事実です。が、後々みなさまの感想を聞いてみると、「1部屋で全部の発表を聞けるので、これはこれでアリだね」という声もありました。

メインイベントである研究委員会シンポジウム『「体育嫌い」の社会学:体育嫌いの何が問題とされているのか』も成功裡に終わりました。中山健二郎さんの司会のもと、坂本拓弥さん、井谷聡子さん、原祐一さんを講師に迎えて、指定討論者の宮本幸子さんを交えて闊達な議論が交わされました。

実行委員会の裁量として、工夫したのは以下の4点でした。第1に、実行委員会企画は私自身がやりたいことをやらせてもらおうと「アメリカの“部活”を問う：共同調査研究プロジェクトの成果を元に」をシンポジウム形式で実施しました。第2に、情報交換会は有意義で美味しく楽しく歓談できるよう、オープンスペースに食事・飲料をたくさんご用意しました。第3に、例年の値段設定と比較して、学生の参加費・情報交換会費を下げて、一般の方々のそれらを少し上げて、若手優遇を目論みました。第4に、私物のコーヒーセット一式を会場に持ち込んで、私の好きなコーヒーをご来場のみなさまへ振る舞わせていただきました（推計200杯!?!）。

大学院生・学部生有志にもアルバイト補助で手伝ってもらいました。それぞれ大いに頑張ってくれて、授業・ゼミや研究場面とは違った活躍ぶりを発揮してくれたことに驚きました。さらに予想外なことに(?)、「学生さんたちが優しく明るく元気で丁寧に準備・対応してくれて本当に良かった。すばらしい!」と声をかけてくださる参加者もいて、なんだか私もうれしかったです。

最後に、日本体育社会学会第4回大会にかかわってくださったすべての方々に、心からの御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。日本の体育社会学がこれからも益々発展していきますこと、願っています。

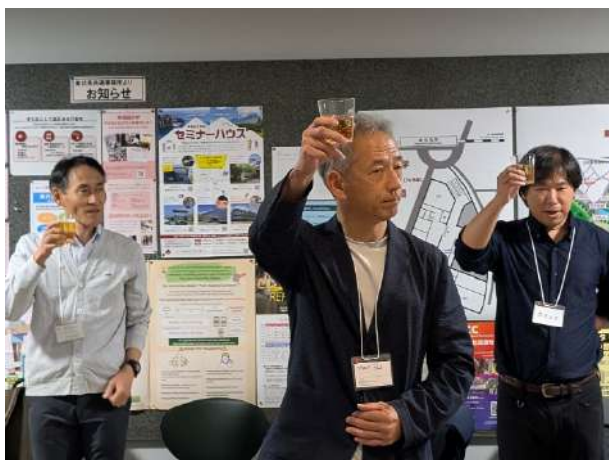
大会実行委員長 中澤篤史（早稲田大学スポーツ科学学術院）



台風の中、WASEDA BEAR が出迎えてくれました



実行委員会企画シンポジウム



高峰会長による懇親会の乾杯挨拶



懇親会の料理。台風による急なキャンセルにも快く対応いただきました



研究委員会企画シンポジウム



実行委員会の堀田会員（左）、中澤委員長（右）

<日本体育・スポーツ・健康学会第76回大会スケジュール>

テーマ：地域変革へのスポーツ実践と科学の貢献
—ウェルビーイング実現に向けた「集まる・つながる共生社会」を目指して—
詳しくはHPをご覧ください。 <https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jspehss76>

1. 大会日程

2026年8月31日（月）～9月2日（水）

開催形式：対面式

2. 開催会場

札幌コンベンションセンター（1日目）、北翔大学（2・3日目）

3. 大会スケジュール

- ◇大会1日目（8月31日（月）） オープニング（デモ・セレモニー）／基調講演／本部企画シンポジウム／
専門領域別企画並びに研究発表／情報交換会
- ◇大会2日目（9月1日（火）） 総会／専門領域別企画並びに研究発表／テーマ別研究発表並びにテーマ別
シンポジウム
- ◇大会3日目（9月2日（水）） 本部企画シンポジウム／テーマ別研究発表並びにテーマ別シンポジウム

4. 体育社会学・体育経営管理・体育科教育学合同シンポジウム

日時：8月31日（月）13：50～15：10

会場：札幌コンベンションセンター 大ホールAB

テーマ：社会と対峙する学校体育への学際的アプローチ—保健体育教師に求められる新たな力量形成—

コーディネーター：山本理人（北海道教育大学岩見沢校）、石坂友司（奈良女子大学）、林田敏裕（東京学芸大学）

シンポジスト：学校体育を取り巻く社会の変化と子どもの身体 有山篤利（神戸親和大学）

体育科授業研究を通じた教師のエンジェンシーと力量形成 鈴木 聡（東京学芸大学）

保健体育教師の発達を支援するコミュニティとガバナンス 朝倉雅史（筑波大学）

5. 理事会

8月31日（月）12：40～13：40 会場：札幌コンベンションセンター107会議室

6. 総会

9月1日（火）12：00～13：00 会場：北翔大学136教室

7. 体育社会学専門領域 発表プログラム

8月31日（月）

口頭発表① 座長：中山健二郎（東海大学） 会場：札幌コンベンションセンター101会議室

15：20～15：45

中山璃子（岡山大学大学院教育学研究科）

『頑張れ』は誰のための言葉か

—陸上競技者の意味づけから—

15：50～16：15

大隈節子（三重大学）

バレーボール競技者を対象とした「間合い」の構造に関する実証的研究

口頭発表② 座長：原祐一（岡山大学） 会場：札幌コンベンションセンター204会議室

15：20～15：45

須藤巖彬（早稲田大学大学院）
運動部活動における「居場所」論の再考
―承認をめぐる部員の存在証明に着目して―

15:50 ～ 16:15

種谷大輝（立教大学）
中学校運動部員を対象としたアンビバレンスの様相とその要因に関する調査研究
―レギュラーと補欠の差異に着目して―

口頭発表③ 座長：白石翔（富山大学） 会場：札幌コンベンションセンター101 会議室

16:30 ～ 16:55

清水一巳（敬愛短期大学）
2歳児の Moffn 遊びにおける身体-空間-関係生成の研究

17:00 ～ 17:25

堀田文郎（早稲田大学スポーツ科学学術院）
筋力トレーニング実施率の時系列分析
―1996年から2024年のスポーツライフ・データの二次分析を通じて―

口頭発表④ 座長：村本宗太郎（立教大学） 会場：札幌コンベンションセンター204 会議室

16:30 ～ 16:55

マーガ マルセル（九州大学）
福岡県宗像市における運動部活動の地域移行
―生徒と保護者の対応―

17:00 ～ 17:25

横川知司（広島大学大学院教育学研究科院生）
試合機会の均等化を志向した中学生向けソフトテニス大会の設計と評価
―広島大学ソフトテニス教室主催 HSK カップを事例に―

9月1日（火）

口頭発表⑤ 座長：高橋義雄（早稲田大学） 会場：北翔大学 136 教室

9:40 ～ 10:05

溝口赴史（明治大学）
ドイツのシュポルトシューレにみる「連盟」組織の機能
―伝導的形態と指導者養成―

10:10 ～ 10:35

江口波輝（明治大学）
ハーツ・オブ・ミドロシアン FC の地域性
―「集中的オーナーシップ」から「コミュニティ・オーナーシップ」へ―

口頭発表⑥ 座長：笹生心太（明治大学） 会場：北翔大学 138 教室

10:20 ～ 10:45

中澤篤史（早稲田大学）
アメリカの高校運動部活動の実態に関する調査研究（5）
―カリフォルニア州における高等学校体育連盟と競技システム―

10:50 ～ 11:15

小石川聖（早稲田大学大学院）
アメリカの高校運動部活動の実態に関する調査研究（6）
―各州高等学校体育連盟の組織的特徴に関するオーバービュー―

11:20 ～ 11:45

東原文郎（帝京大学）
スポーツへの投資は大学を救う奇貨となるか？！
―フルーティ効果とルディ効果にみるアメリカ大学スポーツの複相性―

口頭発表⑦ 座長：石澤伸弘（北海道教育大学） 会場：北翔大学 136 教室

10：50 ～ 11：15

高部巖輝（明治大学大学院教養デザイン研究科）

フットボール・ガバナンス法の成立と欧州サッカーの統治構造
—ガバメントから協治ガバナンスへ—

11：20 ～ 11：45

宮本幸子（笹川スポーツ財団）

基礎自治体におけるスポーツ政策の内容と主管部局との関連
—「スポーツ振興に関する全自治体調査 2024」の二次分析を通して—

口頭発表⑧ 座長：渡辺泰弘（広島経済大学） 会場：北翔大学 136 教室

13：10 ～ 13：35

中田健斗（明治大学）

アメリカのスタジアム建設をめぐる公共性
—フランク・A・グリディのスタジアム研究にみる社会的効果—

13：40 ～ 14：05

太田明李（中京大学大学院スポーツ科学研究科）

スポーツミュージアムにおけるチームアイデンティフィケーション、真正性、意図的ロイヤルティの関連性
—豊田スタジアムギャラリーに着目して—

口頭発表⑨ 座長：小坂美保（神戸女学院大学） 会場：北翔大学 138 教室

13：10 ～ 13：35

船木豪太（早稲田大学大学院）

戦前日本における高等教育機関の競技大会の歴史的展開
—朝日新聞社編『運動年鑑』を用いた基礎的検討—

13：40 ～ 14：05

加藤朋之（山梨大学）

体育の教育へゲモノー獲得戦略と坪井玄道

7. 発表の形式について

- ・今大会における本領域の発表数は、口頭発表 19 演題です。
- ・口頭発表は 1 演題あたり 25 分間（発表 15 分間、質疑応答 10 分間）です。
- ・詳細につきましては第 76 回大会プログラムをご参照ください。

事務局長 常行泰子（神戸市外国語大学）

＜『年報 体育社会学』編集委員会より＞

暑中お見舞い申し上げます。編集委員会でございます。

まずもって、定例のインフォメーションでございます。『年報 体育社会学』編集委員会では、現在第8号（2027年4月刊行）の投稿論文の原稿を受け付けております。投稿された論文が2027（令和9）年1月末までに論文審査を終えて採択されれば第8号への掲載となりますが、1月末を過ぎても採択後には翌年の機関誌の刊行（第9号）を待たずにJ-stageへ早期公開し、可能な限り投稿者の研究成果を国内外の研究者に広く共有してもらえよう編集体制を整えております。投稿先を検討中という会員の皆様は、是非とも『年報 体育社会学』へのご投稿を検討ください。なお、投稿には締め切りはございません。年間を通じて投稿を受け付けておりますので、何卒よろしくお願いいたします。詳細は、「投稿に関わる諸規程等一覧」をご覧ください。

https://jsspe.org/wp-content/uploads/annualreport_regulations_20230625.pdf

『年報 体育社会学』J-STAGEはこちらからご覧いただけます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/arspes/-char/ja>



学会誌の編集を担当することになって早1年ちょっと。「編集とはなんぞや」との思いが募り、津野梅太郎氏の『編集の提案』（2023：黒鳥社）を精読することに。ふむふむ、「つくりかえる。読みかえる。ずらしてつかう。へそまがりでなければなにごともしまらない」かあ、なるほどお...。

畢竟、この本は、本編集委員会業務には何ら役に立ちませんでした（苦笑）。

但し、一研究者としては、おおいなる示唆を得た思ひなです。ご紹介までにて。

編集委員長 谷口勇一（大分大学）

<事務局より>

日本体育社会学会第4回大会が、おかげさまで無事終了しました。ダブル台風の中、ハイブリッド体制を整え、素晴らしい学会環境をご提供くださった大会実行委員会及び早稲田大学関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。2026年8月には、日本体育・スポーツ・健康学会第76回大会が開催されます。学会の充実に向けて、引き続きよろしくお願いいたします。

1. 会員動向

日本体育社会学会（体育社会学専門領域）の会員数は、2026年7月26日現在358名（名誉会員は26名）です。

2. 会員情報

変更がありましたら、日本体育・スポーツ・健康学会（本会）のシステムを更新していただければ幸いです（但し、本会に入会されていない「日本体育社会学会のみ」の会員におかれましては、メールにて事務局へお知らせください）。

3. 新会員制度と会員募集について

2025年1月1日から新会員制度が導入され、日本体育・スポーツ・健康学会に所属されていない方でも、理事会の承認を得て会員（正会員、学生会員）になることができます。会費は、日本体育・スポーツ・健康学会所属の正会員は年額3,000円、それ以外の正会員は5,000円、学生会員は3,000円となります。名誉会員からは徴収いたしません。

入会方法につきましては学会ホームページ「学会（専門領域）について」の「入会のご案内」をご覧ください。お近くの研究者の方、指導院生などに周知いただければ幸いです。

4. 『年報 体育社会学』の販売について

2026年4月に『年報 体育社会学』第7号が刊行されました。学会誌の送付は前年度の会費納入に対して行われていますので、新規入会の方、複数冊が必要な方などは杏林書院さんのサイトから購入してください。第5号より販売を行っています。大学図書館などの所蔵として、定期購入をご検討・ご依頼いただければ幸いです。
<https://www.kyorin-shoin.co.jp/book/b10134951.html>

5. 事務局の連絡先

事務局のメールアドレスは以下の通りです。 jimukyoku@jssspe.org

○2026年度 日本体育社会学会第1回理事会 議事録

期 日：2026年6月27日（土）9：30～10：30

場 所：早稲田大学東伏見キャンパス（79号館204教室）／オンライン（ハイブリッド開催）

出席者：高峰修（会長）、清水諭（副会長）、水上博司（理事長）

石坂友司、石澤伸弘、伊藤央二、大勝志津穂、大沼義彦、工藤康宏、笹生心太、下竹亮志、白石翔、高橋豪仁、高橋義雄、谷口勇一、中澤篤史、中山健、中山健二郎、原祐一、宮本幸子、村本宗太郎、依田充代、渡辺泰弘、渡正（以上理事、敬称略、五十音順）

有山篤利（以上監事、敬称略、五十音順）

常行泰子（事務局長）、稲葉慎太郎（事務局次長）（敬称略）

欠席者：甲斐健人（以上理事、敬称略）

前田博子（以上監事、敬称略）

司 会：水上理事長

議事録：常行事務局長

水上理事長より挨拶があり、台風や地震の影響を含めて対応してくださった大会実行委員会への感謝が述べられ、議事の司会進行が進められた。

<報告事項>

1. 各委員会報告

研究委員会は、石坂委員長より第4回日本体育社会学会大会の一般発表審査を実施し、12演題のうち、1題は規程に基づき発表対象外とし、1題は発表取り下げのため、発表演題数は10題となったこと、大会シンポジウムの企画・準備状況について報告があった。日本体育・スポーツ・健康学会第76回大会における一般発表(19題)のプログラム編成を行い、体育社会学・体育経営管理学・体育科教育学による合同シンポジウムの企画・準備状況について報告があった。一般発表時間について、「発表15分・質疑10分」を正式な運営方法として確認した。

編集委員会は、谷口委員長より日本体育社会学会第4回大会発表抄録集を作成したこと、日本体育・スポーツ・健康学会第76回大会発表抄録集を作成する予定であることについて報告があった。『年報 体育社会学』第8号の投稿状況(掲載決定論文3編、査読中2編)について報告があり、例年どおり特集論文・書評を掲載予定であることが報告された。

広報委員会は、笹生委員長よりニューズレター2026年春号を発行したこと、今後、夏号・冬号の発行及び「ちょっと一息、体育社会学」の内容充実を進める予定であることが伝えられた。

学会大会委員会は、中澤委員長より今後の学会大会開催方法について検討を継続していることが報告された。

国際交流委員会は、石澤委員長より「体育社会学」「教育現場におけるスポーツ活動」を研究テーマとする海外研究者の調査を進めていること、候補者として関東地方の大学所属研究者について検討を進めており、次年度の大会で国際シンポジウム・キーノート企画に向け、人選を進める予定であると伝えられた。

事務局からは、常行事務局長より日本体育社会学会の新会員の入会申請について報告があり、入金確認済みであることが説明された。また、日本体育・スポーツ・健康学会第76回大会発表抄録集作成に関する案内を7月末頃に配信予定であることが報告された。

2. 役員選挙におけるダイバーシティ配慮について

水上理事長より、他学会における役員選挙制度を調査した資料に基づき、ダイバーシティの観点から制度改善について継続検討することが報告された。

3. 2027年度学会大会の開催について

学会大会委員会から検討の結果として、2027年度大会の開催時期について日本体育・スポーツ・健康学会開催時期に合わせる方向性が示された。それを受け執行部で検討したところ、本学会の独自会員の発表機会が失われる点、来年度の日程が平日開催となる点などを踏まえ、開催時期については引き続き慎重に検討する必要があることが報告された。そこで2027年度については従来どおりの時期に開催することが提案され承認された。開催校については現在交渉中であることも報告された。

4. 日本体育・スポーツ・健康学会第76回大会について

石坂委員長より大会プログラムについて説明があり、8月31日(月)、9月1日(火)2日(水)の日程で開催予定であること、体育経営管理と体育科教育学の3領域で札幌コンベンションセンター大ホール(収容1000名)を会場とした合同シンポジウムが開催される予定であると報告された。一般発表の演題数は19演題であることが報告された。

5. その他

特になし

<審議事項>

1. 2026年度入会申請

以下2名の入会（学生会員）について審議し、承認された。
山口結己氏（岡山大学大学院）、布田航氏（早稲田大学大学院）

2. 2025 年度決算報告

事務局会計担当工藤理事より、2025 年度決算報告が行われた。前年度繰越金について 330 円の誤差が判明したため修正したこと、また監査は適正に実施されたことが報告された。監事1名の署名については海外出張のため総会前に行い、提出することが説明された。以上、審議の結果、承認された。

3. 2026 年度事業計画の変更と補正予算

各委員会から変更事項及び補正予算は申請されなかった。

4. 学生研究奨励賞の選考について

大勝学生研究奨励賞選考副委員長より、選考委員会5名により審査を行った結果、1名を候補者に選出したことが報告された。しかし大会直前に体調不良のため発表を取り下げる旨の連絡を受けたことから、選考委員会で改めて検討した結果、①発表を取り下げることで次点を選ぶ規程がないこと、②次点を選ぶにあたっては合議が必要となるが、時間的な余裕がなかったこと、等を踏まえて、今回は繰上げによる候補者の選出を行わず、選考委員会としては「該当者なし」とし、最終判断は理事会に一任することが説明された。

この件について審議したところ、規程には明記されていないものの、奨励賞の授与には抄録の審査に加え当日の発表を必須条件とすることを確認し、今年度は「該当者なし」とすることが承認された。併せて、今後同様の事例に対応できるよう規程整備を進めることとした。

5. 日本スポーツ体育健康科学学術連合等への加盟について

水上理事長より、日本スポーツ体育健康科学学術連合と日本学術会議協力学術研究団体への加盟（受付再開後）について提案があり、いずれも承認された。

6. 2027-28 年度役員選挙について

常行事務局長より、選挙管理委員2名について選定を進めており、候補者決定後、メール理事会にて審議することが承認された。

7. その他

発表者の会員資格確認について、発表エントリー時点で両学会の入会手続き状況を事務局・研究委員会で共有する必要性が確認された。また、国際交流委員会より、次年度大会のテーマや企画内容を早期に共有してほしいとの要望があった。

本大会の中澤大会実行委員長へ、台風・地震等のアクシデントに見舞われながらも、ハイブリッド開催へ柔軟に対応くださったこと、スタッフへの感謝の挨拶が述べられた。また、高峰会長と有山監事からは、社会情勢の変化において守りに入らず積極的にチャレンジする重要性が示唆され、今後の本学会におけるさらなる発展への期待が寄せられた。

次回理事会は、2026 年 8 月 31 日（月）に予定している（日本体育・スポーツ・健康学会第 76 回大会会期中）

○ 2026 年度 日本体育社会学会第 1 回総会 議事録

日 時：2026 年 6 月 28 日（日）12：30～13：30
場 所：早稲田大学東伏見キャンパス（79 号館 205）
出席者数：73 名（対面 48 名／オンライン 25 名）
司 会：水上理事長
議事録：常行事務局長

議事に先立ち、高峰会長より挨拶がなされた。

<議題>

1. 議長、議事録署名人の選出

会員から立候補がなかったため、執行部提案により、小坂美保会員が議長に選出された。また、議事録署名人は会員から立候補がなかったため、同様に笠原亜希子会員、三角さやか会員が選出された。

2. 2025 年度活動報告

2025 年度の各委員会活動報告について、2025 年度第 2 回総会以降の活動を中心に報告がなされた。異議などなく、承認可決された。

3. 2025 年度 第 3 回大会決算報告

2025 年 6 月 21 日（土）・22 日（日）に東北大学で開催された第 3 回大会について、事務局会計担当者から会計報告がなされた。前田監事より、会計監査の結果、会計は適切に処理されていることが報告された。異議などなく、承認可決された。

4. 2025 年度 決算報告

事務局会計担当工藤理事より、2025 年度決算について説明がなされた。前年度繰越金について振込手数料 330 円の差額が判明したため修正した。事前に配布した資料については、監事 1 名の署名が総会前までに間に合わなかったものの、監事 2 名による監査を実施し、総会前に署名が完了したことが報告された。続いて前田監事より、会計監査の結果、会計は適切に処理されていることが報告された。異議などなく、承認可決された。

5. 2026 年度 活動計画（案）

2026 年度活動計画について、各委員会から提案がなされた。異議などなく、承認可決された。

6. 2026 年度予算（案）

学会事務局会計担当者より 2026 年度予算案について提案がなされた。役員選挙等の説明があり、異議などなく、承認可決された。

7. 第 5 回学会大会開催校について

水上理事長より、2027 年度に開催される第 5 回大会開催校の候補について説明がなされた。現在、候補となる大学関係者と調整中であり、決定次第、会員へ周知する予定であることが報告された。

8. 外部関連団体への加盟について

水上理事長より、外部関連団体（日本スポーツ体育健康科学学術連合／日本学術会議協力学術研究団体）への加盟を検討している旨の説明がなされた。なお、後者については現在申請の受付が停止されているため、受付が再開された折に、協力学術研究団体の制度が大幅に変更されていない場合に限って申請手続きを進めるという条件での提案であることも説明された。菊会員より、前者については、「日本学術会議の協力学術研究団体であることが前提として必要になる」との情報提供があり、入会の時期とも併せて検討する旨が述べられた。

9. その他

松尾会員より、学会大会の開催時期に関して、これまでの本学会が独立学会となるまでの議論を含めた助言があった。大学院生を育成する上で、さらにはその大学院生が研究者となり学会員数を確保する上で一般発表の機会を設けることは極めて重要であり、大学院生を対象とした助成を充実していく必要性も示唆された。

<報告>

1. テキスト出版について

石坂理事より、『体育社会学の課題と展望』（大修館書店）について、2025 年 10 月に刊行されたことが報告された。

2. 2025 年度体育社会学オンラインレクチャーシリーズの終了について

水上理事長より、オンラインレクチャーシリーズが全 7 回開催され、延べ 1066 名の方々に参加いただいたこと、また、ご協力いただいた講師や参加者の方々に感謝の意が表された。

3. 第 76 回日本体育・スポーツ・健康学会について

常行事務局長より、2026 年 8 月 31 日（月）～ 9 月 2 日（水）札幌コンベンションセンター／北翔大学にて開催される第 76 回大会について説明があった。

4. 2027-28 年度役員選挙管理委員について

常行事務局長より、次年度の役員選挙に備えて、選挙管理委員選出規定に従い役員を 2 期勤めていただいた方の中から選挙管理委員を依頼する予定であることが報告された。

5. 学生研究奨励賞選考結果発表

大勝学生研究奨励賞選考副委員長より、1 名の方を候補者に選出したが、学会直前に体調不良のため発表を取り下げる旨の連絡を受けたことから、選考委員会としては「該当者なし」とし、最終判断は理事会に一任することを理事会に報告したことが報告された。これを受けて理事会において審議したところ、理事会としても今回は繰上げによる候補者の選出を行わず「該当者なし」と判断したことが報告された。続いて、水上理事長より補足説明があり、本賞の授与には当日の発表を必須条件とすることを理事会において確認した旨が報告された。あわせて、現行の規程が直前の発表辞退に対応できる仕様になっていないことから、今後は規程の改正に向けて検討を進める方針が示された。

6. その他

特になし

議長より、閉会の挨拶がなされた。

以上

議事録署名人 笠原亜希子

議事録署名人 三角さやか

事務局長 常行泰子（神戸市外国語大学）

＜あとがき＞

日本体育社会学会 News Letter 2026 Summer Issue をお届けいたします。

まずはこの度の熊本地震に際しまして、被災された皆さまに謹んでお見舞いを申し上げます。一日も早い日常の回復を心よりお祈り申し上げます。

今号は、6月に早稲田大学東伏見キャンパスで開催されました日本体育社会学会の大会報告と、8月から9月にかけて開催されます日本体育・スポーツ・健康学会第76回大会が主な内容となっています。特に第76回大会については、合同シンポジウムのテーマ・シンポジストや領域の発表プログラムが記載されていますので、ぜひご覧ください。

早くも vol.9 まで進みました「ちょっと一息」コーナーでは、ご多忙中にもかかわらず、有山篤利会員（神戸親和大学）、三角さやか会員（園田学園大学）、白石翔会員（富山大学）にご寄稿いただき、猛暑の続く中に一息の涼風を運んでいただきました。先生方におかれましては深く御礼申し上げます。

さて先述の通り、8月31日（月）から9月2日（火）には、札幌コンベンションセンター（1日目）および北翔大学（2・3日目）において、日本体育・スポーツ・健康学会第76回大会が、「地域変革へのスポーツ実践と科学の貢献—ウェルビーイング実現に向けた『集まる・つながる共生社会』を目指して—」をテーマとして開催されます。

サブタイトルに含まれるウェルビーイングは、2025年のスポーツ基本法改正により、前文および基本理念に「ウェルビーイングの向上」として含まれるようになりました。「多様な国民一人一人が生きがいを持ち幸福を享受できるとともに、豊かさを実感できる社会の実現」のために、体育社会学はどのような問題意識を持ち、研究を深めていくかが重要になっていくものかと思われまます。

個人的には昨今の高校野球をめぐる様々な議論をきっかけとして、気候変動と体育・部活動のあり方は気になるテーマの一つです。2007年に最高気温が35℃以上の「猛暑日」が制定されましたが、2026年の4月には最高気温が40℃以上の日が「酷暑日」として制定され、尋常ではない気候の中で体育・部活動の現場はこれまで以上に新たな対策および変革が求められているといえます。学会大会を機に学びを深めるとともに、会員の皆さまと意見交換ができますと幸いです。

学会大会の内容に移りますと、1日目は体育社会学・体育経営管理・体育科教育学領域の合同シンポジウムが、「社会と対峙する学校体育への学際的アプローチ—保健体育教師に求められる新たな力量形成—」とするテーマで開催され、1日目、2日目には体育社会学専門領域の口頭発表19演題も予定されています。暑さがやや抑えられた北海道の地で皆さまとお会いできることを楽しみにしております。

今後も猛暑日・酷暑日が続くことが予想されますので、会員の皆さまにおかれましてはくれぐれもご自愛ください。

広報委員 村本宗太郎（立教大学）



プロフィール



神戸親和大学。博士(教育学、広島大学)。

出身地 京都府京都市

出身大学・大学院 京都教育大学教育学部、京都教育大学大学院
教育科学研究科、立命館大学大学院博士後期課程単位取得後
満期退学

職歴 京都府立高等学校教諭、京都府教育委員会指導主事、聖泉
大学教授、兵庫教育大学大学院教授、追手門学院大学教授、
2026年より現職

主な業績 わざを忘れた日本柔道(大修館書店、2023年)。

📖 わたしの研究

●現在の研究テーマ

今は部活動に埋め込まれたサードプレイスの機能に注目しています。現在行われている改革はスポーツ活動の地域展開であって、部活動の地域展開ではないと思います。

●研究を始めたきっかけ

高校の管理職になるのが嫌で、教育委員会を辞めて思わず飛び込んだのがこの世界。出会い頭のようなものですが、やりだすと面白くてやめられなくなりました。

●最近読んだ本・論文

笹生心太「サッカー報道とナショナリズム：日本人らしいプレーとは何か」(青弓社、2026年)

●その印象を一言で

武道の「わざ」を通して日本文化を考えてきた私にとって、サッカーという外来文化で「日本人らしさ」が顕在化する過程を探るという発想が面白くてたまりません。

●実は取り組んでみたい研究

「わざ」を究めるといふ武道の実践姿勢にとっても興味を持っています。超高齢化社会を迎えた現代に非常に重要な示唆を含んでいるようです。ライフワークとして取り組んでみたいと思っています。

●憧れの研究

自分の興味だけではなく、困っている誰かのために社会課題を解決しようと努力されている研究には分野を問わず感激します。

🔍 小さい頃のわたし

●熱中していたスポーツ

子供の頃は人並みに草野球やドッジボールに熱中していました。一番長い付き合いの柔道は…辞める勇気がなかっただけです。

●好きだったこと

実は運動やスポーツをするよりも、本を読むのが大好きでした。お絵描きも好きでしたが、小学校3年の時に図工で「2」をつけられました。

●憧れ・スター

山岡鉄舟。幕末・明治の剣術家で幕末の三舟と呼ばれた人です。江戸無血開城の立役者ですが、その生き方と人柄は永遠の憧れです。

●将来の夢

将来を語れる時間が少なくなってきました。今はできれば仙人になりたいです。

●人生の転機

当時としては桁外れの体格(小6で100kg超え)だった弟の付き合いで、柔道場に通り始めてしまった小4の春です。

≡ 普段のわたし

●好きな食べ物・飲み物

口に入るものはなんでも美味しいですが、やはり妻のつくる料理が一番。大のコーヒー好きで、お酒は全くダメなのにノンアルビールが大好きな変わり者。

●好きな本

歴史小説や伝奇小説。そして柄にもなく、小野不由美の「十二国記」などファンタジーで異世界に旅するのも大好きです。

●好きな音楽

激しい音楽よりもバラード調のしっとりした曲が大好きです。尾崎豊のバラードなんて最高！研究室にはいつもジャズが流れています。

●好きな動画

「スポーツカフェありやん」というYouTubeサイトを運営していて、「ありやんのスポーツカフェ」「からだ育て放送局」「武道の散歩道」という番組をやっています。

●趣味・マイブーム

学問の師匠に影響されて、趣味は万年筆。でも、集めるのではなく、色々な万年筆で「書く」のが趣味です。

●最近嬉しかったこと

「先生の講義が楽しみでたまりません」と(お世辞を言う)学生が増えたこと。

●宝物

妻、一択です。

●出身地／居住地の自慢

今は神戸市に単身赴任中ですが、週末に自宅のある京都府亀岡市に帰ると背の低いなだらかな山並みと保津川、田園風景が心を癒してくれます。

プロフィール



園田学園大学人間健康学部総合健康学科 助教／一般社団法人 子ども未来スポーツ・社会文化研究所 主任研究員。修士(健康学)。

出身地 大阪府池田市

出身大学・大学院 武庫川女子大学短期大学部健康スポーツ学科、園田学園女子大学人間健康学部、関西大学大学院人間健康研究科(博士課程前期課程、博士課程後期課程・在学中)

職歴 民間フィットネスクラブ・スイミングクラブ勤務11年、フリーランスフィットネスインストラクター7年を経て、2024年より現職。

主な業績 「民間スイミングクラブにおける選手育成に関する研究：『人間力』教育に着目して」(人間健康研究科論集 7 :1-19)など。

わたしの研究

●現在の研究テーマ

民間スイミングクラブの研究をしています。学校運動部育ちとスイミング育ちの選手の違いは、その指導の中にあると考え、民間スイミングクラブの教育とは何かということを調査しています。

●研究を始めたきっかけ

会社員時代に運動指導の現場では短大の学びでは説明できないことが多数見られ、「それはなぜ起こるのか？」と感じ、明らかにしたくて学部3年次に編入して大学院を目指しました。

●最近読んだ本・論文

大野裕之『デンさんのプール 杉本傳〜水泳ニッポンを作った男』(小学館、2025)

●その印象を一言で

人と人とのつながりの不思議さを感じました。何かを達成しようとする姿勢が、そうさせる人や環境を引き寄せてくるものだなと。

●実は取り組んでみたい研究

今では活動している団体も少なくなっていますが、地域子ども会活動に興味があります。地域のつながりを再考してみたいと思っています。

小さい頃のわたし

●熱中していたスポーツ

ベビースイミングからずっと水泳漬けです。小学校時代はソフトボールやダンスもしていました。

●好きだったこと

テレビゲームをよくやっていましたが、RPGは最後までクリアできなかったことがあります。「THE KING OF FIGHTERS」シリーズをよくやっていました。

●憧れ・スター

バレエダンサーの熊川哲也さんです。幼いながらに彼が空中に滞在している時間の長さに衝撃を受けたことを覚えています。

●将来の夢

お花屋さんや幼稚園の先生と言っていました。中学時代の肩の故障をきっかけにスポーツトレーナー等のスポーツを支える仕事に興味を持っていました。

●人生の転機

杉本厚夫先生との出会いです。何の相談もなく大学院を受験した私を引き受けてくださり、感謝しかありません！今考えると本当にぶっ飛んでますよね(汗)。

普段のわたし

●好きな食べ物・飲み物

食パンが好きでモーニングを食べに行ったりします。我が家はタカラジェンヌへの差し入れで有名な「パネル」の食パンを好んで食べています。

●好きな本

有川浩先生の小説が好きです。「県庁おもてなし課」を読んでからずっと高知県に遊びに行きたいを思っているのですが…。

●好きな音楽

清塚信也さんのピアノを聞いたりもしますが、EDMをガンガンかけて踊っていることもあります。

●出身地／居住地の自慢

大阪府池田市は阪急グループ創始者小林一三先生のゆかりの地で、五月山をはじめ緑が多い地でありながら大阪市内に電車で20分程で行ける便利なところ。地酒に「呉春」があります。

●宝物

会社員時代に担当していた選手が出場した全国大会のTシャツやタオル。

●趣味・マイブーム

プロ野球観戦です。父親が野村克也さんのファンで、監督をされている時にヤクルトスワローズの存在を知り、東京音頭と共に傘を振っています。





プロフィール



富山大学学術研究部教育学系・大学院教職実践開発研究科。
修士(教育学)

出身地 広島県尾道市

出身大学・大学院 岡山大学大学院教育学研究科

職歴 公立小学校教諭、環太平洋大学体育学部体育学科助教・講師
を経て、2025年から現職

主な業績 「甲子園球児にとっての儀礼：球児が高校生に戻るために」
（『年報体育社会学』第4巻, p.83-95）など。

📖 わたしの研究

●現在の研究テーマ

認識レベルの合意であるコンセンサスと、
行為レベルの合意であるアコモデーション。
この二つの位相を区別することで、
体育・スポーツにおける合意形成や協働に
どのような可能性が生まれるのかを
研究しています。

●研究を始めたきっかけ

幼い頃から、納得できないまま物事を進
めることが苦手で、「なぜそうするのか」
を考えずにはいられませんでした。大学
院で、その違和感を社会的な問いに
変える面白さを学んだことが、研究の始
まりです。

●最近読んだ本・論文

磯野真穂『他者と生きる リスク・病い・死
をめぐる人類学』（集英社新書、2022）

●その印象を一言で

生きることの不確かさと、他者との関係
が私たちの生に残す「時間の厚み」につ
いて、静かに考えさせられました。

🔍 小さい頃のわたし

●熱中していたスポーツ

野球小僧でした。小学3年生から始め、
29歳のときに第42回全日本クラブ野球
選手権大会に出場しました。メットライ
ブドームで本塁打を打ったことは、今で
もひそかな自慢です(笑)。

●好きだったこと

学校の帰り道に道草をすることと、休み
時間に友達とサッカーやキックベース
ボールをすること。

●憧れ・スター

イチロー選手、松井秀喜選手、野茂英
雄選手

●将来の夢

もちろんプロ野球選手です。

●人生の転機

大学院への進学と、指導教員との出会
いです。同じ出来事でも、見方が変わ
ればまったく違う側面が見えてくる。そ
の驚きを知ったことが、人生の大きな転
機になりました。

☰ 普段のわたし

●好きな食べ物・飲み物

尾道ラーメンです。地元を離れてから、
より好きになりました。

●趣味・マイブーム

大学の昼休みに、ご退職された大先輩
の先生方とテニスをしています。初心
者の私にも温かく合わせてくださり、居
心地のよい時間です。

●宝物

妻と3人の子どもです。

●出身地／居住地の自慢

出身地の尾道は、海、島、坂道の景色
が自慢です。現在暮らす富山では、晴
れた日に見える立山連峰の迫力に、今
でも驚かされます。

